

平成29年度事業報告

平成29年度は、事業計画に基づき、市当局をはじめ、関係者のご支援とご協力のもと、従業員一丸となり取組を進めた結果、概ね順調に運営することができた。

宿泊者については、1万6千人を超えた平成27年度及び平成28年度には及ばなかったものの、平成26年度を上回る1万4千751人を確保することができた。

全体収支では、2,017万3千832円の赤字となり、キャッシュフローベースの収支（減価償却費の要因を除いた現金収支）では426万5千210円の赤字となった。

これについては、昨年度に引き続き行った、客室のリフォームや、Wi-Fiの新設など、宿泊環境の改善を中心に、総額で1,500万6,882円の修繕を行ったためであり、今後、その効果が収益確保に表れることが期待される。

一方、平成8年に会館が建設されて以降、抜本的な施設改修を実施していないため、施設・設備の老朽化対策が喫緊の課題であり、そのための資金の確保とともに、長期的視野に立った運営計画の検討が、引き続きの課題となっている。

1. 部門別の状況について

(1) 宿泊部門

年間宿泊者数は、ネット予約の拡充、近隣ホテルの料金設定に応じた柔軟な料金プランでの運用に加え、客室のリフォーム効果等により、特需的要素が強かった平成27年度及び平成28年度の1万6千人には及ばないものの、14,751人を確保することができた。

宿泊客の核となるリピーターについては、客室リフォーム等の宿泊環境の改善効果により、約3割を維持することができた。

(2) 貸会場部門

貸会場部門は、利用者の減少に歯止めがかからず、年間収入は、前年度実績を下回る396万円まで減少した。

要因としては、営業活動を目的とする大規模利用者の減少、貸会場及び備品の老朽化、市役所新庁舎完成による貸会場の増加などが考えられ、今後もこの傾向が続くことが懸念される。

(3) 生活相談部門

生活相談事業は、一般財団法人への移行の際、公益目的事業と位置付けたものであり、その目的を達成するための取り組みを進めた。

具体的には、船員やその家族からの電話による生活相談や、訪船による船員とのコミュニケーションを行った。

2. 施設運営について

(1) 保守管理業者の選定

複合建物全体の保守管理業務については、前年度と同様、(株)くれせんとの間で随意契約により委託した。

会館独自の5階以上の日常清掃、ベッドメイキング等についても、(株)くれせんとの間で業務委託契約を結んだ。

その他施設の保守管理等についても、前年と同様の業務委託契約を締結した。

(2) 設備機器の保守管理等

保守管理業者により、定期整備・点検を実施した。

故障及び不具合が生じた冷温水機や消防設備など、その都度修繕を行った。

日常的な保守点検は職員が交代で行っているが、設備の老朽化により故障は増加傾向にあり、引き続き課題となっている。

(3) 客室の改装

今年度は、前年度同様の客室の改装を行った。

具体的には、10階の洋室（シングル5室、ツイン2室）及び通路を改装し、10階全体のグレードアップを図った。

3. 職員関係について

本年5月1日現在の従業員は、正職員10名（館長を除く）、常用パート職員4名、アルバイト職員6名の総勢20名で会館運営を行っている。

従業員の給与は、長年凍結し協力を求めてきたが、今年度は、正職員1名の新規採用を行ったため、既存の従業員とのバランス調整が必要となり、これを含め、昇給を実施した。

賞与については、年間4ヶ月（夏2ヶ月・冬2ヶ月）を支給した。

4. 呉市からの借入金について

昨年度から返済を再開した呉市からの借入金については、返済計画に基づき、本年度290万円を返済し、3,770万円に縮減した。

5. きんろうプラザ指定管理について

呉市から指定管理者に選定されている、きんろうプラザの指定管理者業務については、本年度も引き続き誠実に業務を遂行した。